作詞作曲 : イーディス・マクニール

Edith McNeill (1920-2014) については、彼女がテキサス州ヒューストンの救世主教会(聖公会)の長年の会員であったこと、夫がテキサス大学の教授であったこと以外は知られていないようです。

原歌詞

English Standard Version (ESV) の Lamentations (哀歌) 3 章 22-23 節をそのままを歌っています。

22 The steadfast love of the Lord never ceases;

his mercies never come to an end;

23 they are new every morning;

great is your faithfulness.

[備考] steadfast : 忠実な

ceases : 〈続いていることが〉終わる, 途絶える

哀歌 (Lamentations)

哀歌は「エレミヤの哀歌」とも呼ばれます。それは、ギリシア語訳旧約聖書(七〇人訳聖書)の 1 章 1 節に、次の序文が挿入されているからです。

Lam 1:1 [[And it came to pass, after Israel was taken captive, and Jerusalem made desolate, [that] Jeremias sat weeping, and lamented [with] this lamentation over Jerusalem, and said]]

「イスラエルが捕囚となり、エルサレムが荒廃して後、エレミヤは座して泣き、エルサレムのために哀歌を歌って言った」

これ以外に、哀歌の筆者がエレミヤであると断定できる根拠はありませんが、紀元前六世紀末エルサレムが陥落し、多くの民が捕囚としてバビロンに拉致されるという国家的一大惨事を目にして嘆き悲しんだ人がうたったものだということは確かです。

哀歌 1 章(新改訳 2017)

1:1 ああ、ひとり寂しく座っている。人で満ちていた都が。彼女はやもめのようになった。国々の間で力に満ちていた者、もろもろの州の女王が、苦役に服することになった。

1:2 彼女は泣きながら夜を過ごす。涙が頬を伝っている。彼女が愛する者たちの中には、慰める者はだれもい

ない。その友もみな裏切り、彼女の敵となってしまった。

《3節以下省略》

哀歌3章（新改訳2017）

■神によって悩まされる（3:1-18）

- 3:1 私は、主の激しい怒りのむちを受けて苦しみにあった者。
3:2 主は、私を連れ去り、光のない闇を歩ませ、
3:3 御手をもって一日中、繰り返し私を攻められた。
3:4 主は、私の肉と皮をすり減らし、私の骨を砕き、
3:5 私に対して陣を敷き、苦味と苦難で私を取り巻き、
3:6 私を暗い所に住まわせられた。はるか昔に死んだ者のように。
3:7 主は私を囲いに入れて出られなくし、私の青銅の足かせを重くされた。
3:8 私が助けを求めて叫んでも、主は私の祈りを聞き入れず、
3:9 私の道を切り石で囲み、私の通り道をねじ曲げられた。
3:10 主は、私には待ち伏せる熊、隠れたところにいる獅子。
3:11 主は私を道から外れさせ、私を引き裂き、無残な姿にされた。
3:12 弓を引き絞り、私を矢の的のようにして、
3:13 矢筒の矢を、私の腎臓に射込まれた。
3:14 私は一日中、民全体の笑いもの、彼らの嘲りの歌となった。
3:15 主は私を苦菜で満腹にし、苦よもぎで酔わせ、
3:16 私の歯を砂利で砕き、灰の中で私を踏みつけられた。
3:17 私のたましいは平安から見放され、私は幸せを忘れてしまった。
3:18 私は言った。「私の誉れと、【主】から受けた望みは消え失せた」と。

■神にある確信（3:19-39）

- 3:19 私の苦しみとさすらいの思い出は、苦よもぎと苦味だけ。
3:20 私のたましいは、ただこれを思い出しては沈む。
3:21 私はこれを心に思い返す。それゆえ、私は言う。「私は待ち望む。
**3:22 【主】の恵みを。」実に、私たちは滅び失せなかった。主のあわれみが尽きないからだ。
3:23 それは朝ごとに新しい。「あなたの真実は偉大です。**
3:24 【主】こそ、私への割り当てです」と私のたましいは言う。それゆえ、私は主を待ち望む。
3:25 【主】はいつくしみ深い。主に望みを置く者、主を求めるたましいに。
3:26 【主】の救いを静まって待ち望むのは良い。
3:27 人が、若いときに、くびきを負うのは良い。
3:28 それを負わされたなら、ひとり静まって座っていよ。
3:29 口を土のちりにつけよ。もしかすると希望があるかもしれない。
3:30 自分を打つ者には頬を向け、十分に恥辱を受けよ。
3:31 主は、いつまでも見放してはおられない。
3:32 主は、たとえ悲しみを与えたとしても、その豊かな恵みによって、人をあわれまれる。

- 3:33 主が人の子らを、意味もなく、苦しめ悩ませることはない。
3:34 地上の捕らわれ人をみな足の下に踏みにじり、
3:35 人の権利を、いと高き方の前で曲げ、
3:36 訴訟で人を不当に扱うのを、主は見ておられないだろうか。
3:37 主が命じられたのでなければ、だれが語って、このようなことが起きたのか。
3:38 わざわいも幸いも、いと高き方の御口から出るのではないか。
3:39 生きている人間は、なぜ不平を言い続けるのか。自分自身の罪のゆえにか。

■ 艱難に取り巻かれて (3:40-54)

- 3:40 自分たちの道を尋ね調べて、【主】のみもとに立ち返ろう。
3:41 自分たちの心を、両手とともに、天におられる神に向けて上げよう。
※この 3:41 は、讚美歌第二編第 1 番「心を高くあげよう」の引照聖句になっています
3:42 「私たちは背き、逆らいました。あなたは赦してくだされませんでした。
3:43 あなたは、怒りを身にまとい、私たちを追い、容赦なく殺されました。
3:44 あなたは雲を身にまとい、私たちの祈りをさえぎり、
3:45 私たちを諸国の民の間で、ごみ屑とされました。」
3:46 私たちの敵はみな、私たちに向かって口を大きく開け、
3:47 恐れと落とし穴、荒廃と破滅が私たちに臨んだ。
3:48 娘である私の民の破滅のために、私の目から涙が川のように流れる。
3:49 私の目は絶えず涙を流して、やむことなく、
3:50 【主】が天から見下ろして、顧みられるときまで続く。
3:51 私の目は、都のすべての娘たちを見て、この心を苦しめる。
3:52 私の敵たちは、わけもなく、鳥を狙うように、私をつけ狙った。
3:53 私を穴に落として、いのちを滅ぼそうとし、私に石を投げつけた。
3:54 水は私の頭の上にあふれ、私は「断ち切られた」と言った。

《 55 節以下省略》

以上